「Ｇ７　広島サミット」

2023年05月30日

ドイツに行った時、大きな騒ぎ声が聞こえた。「何ですか」と聞くと、「Ｇ７に反対し、抗議する人たちの声です］と教えてくれた。Ｇ７は先進国が自分たちの経済的権益を守ろうとする会議で、経済安全保障のための独善性に異議を唱える声はあった。安全保障という言葉は、環境安全保障、食糧安全保障、人間安全保障とか、多様に使われるようになった。Ｇ７は、経済安全保障から、軍事的安全保障に力点が置かれるようになっている。

今回のＧ７は、広島出身で、それゆえに核廃絶に使命を感じていると言われている岸田文雄首相が議長となり、「広島サミット」と銘打って開かれた。広島平和公園で、首脳たちが献花する映像が世界に発信され、広島が記憶されたことには意義があった。

首脳たちは、原爆資料館で何を見たかは明らかになっていないが、見学した。そして、芳名帳に言葉を記した。どんな記帳をしたのか、興味があった。「東京新聞」はその言葉を掲載していた。以下、首脳たちの言葉である。

マクロン大統領（フランス）「広島の犠牲者を記憶する義務を果たし、平和に向けて行動することが私たちの責務だ。」スナク首相（イギリス）「広島と長崎の人々の恐怖と苦しみは、どんな言葉を用いても言い表すことはできない。しかし、私たちが心と魂を込めて言えることは、繰り返さないということだ。」また、ツイッターで「深い感銘を受けた。最も暗い瞬間を含め、過去から学ぶことが重要だ」と投稿している。ショルツ首相（ドイツ）「私たちはここで平和と自由を全力で守るという誓いを新たにした。核戦争は二度と起こしてならない。」メローニ首相（イタリア）「過去を思い起こして、希望に満ちた未来を共に描きましょう。」トルドー首相（カナダ）「失われた多くの命、被爆者の声にならない悲嘆、広島と長崎の人々の計り知れない苦悩にカナダは厳粛なる敬意を表する。」バイデン大統領（米国）「世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて共に進もう。信念を貫こう。」また、資料館の展示について「この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの義務を思い出させてくれますように」と言及している。フォンデアライエン欧州委員長（ＥＵ）「戦争の恐ろしい代償と、平和を守り維持する私たちの永遠の義務を強く思い起こさせる。」ミシェル大統領（ＥＵ）「ここで巨大な悲劇が起きた。平和と自由は全人類が最も求めるものだ。」岸田文雄首相（日本）「歴史に残るＧ７サミットの機会に議長として各国首脳と共に『核兵器のない世界』をめざすためにここに集う。」今回のサミットは、ウクライナのゼレンスキー大統領の訪日、参加がビッグニュースであった。彼の行動力、発言力には敬服する。それだけ、痛めつけられているということである。彼は芳名帳に「現代の世界に核兵器による脅迫の居場所はない」と記した。原爆資料館を見れば、誰でも原爆の残虐な非人間性に驚愕させられる。首脳たちは、強い印象、感慨を持たれたようだが、今後、核廃絶に向かってどんな実行をするかである。

Ｇ７の首脳声明は、ロシアのウクライナ侵攻を国際社会の規範、原則に反し、世界に脅威を与えていると、強い言葉で非難している。ロシアの軍事侵略は認められない。中国の覇権を求め、力や威圧による現状変更の目論みに対しても、反対している。一方、ロシアと中国は賛同してくれる国々を集めようと懸命である。しかし、これでは、対立と分裂が深まるだけで、問題の解決には行き着かないのではないかと危惧する。Ｇ７の先進国には、環境安全保障、食糧安全保障、人間安全保障の観点から具体的に進めてもらいたい。それが、世界の平和と安全に寄与する。相手を抑え込む強引な軍事力ではなく、共生を生み出すために、しなやかな対話力で対応する道もあるのではないか。